

第1弾

厚労省・外務省・事業団 最新報告から見た実態

【EPAに基づく介護福祉士候補者受け入れ概要の解析】

- 今回は厚労省・外務省並びに、事業団の最新報告書を入手したので、この3機関の報告書を解析して、各受け入れ機関の今後の受け入れの参考となるように、まとめてみた。
なお、この報告書解析結果を二回に分けて連載することとし、今回は「候補者入国者推移」と「合格者推移」そして、「入国者と合格者数」さらに、「合格者と帰国者数」について六年間の実績を基に、解析している。
- 次号は、EPA 事業に関わる「国家予算と候補者一人に関わる経費」そして、膨大な税金投入をした結果、「合格者に関わった総経費」についての解析を連載する予定。是非、次号にご期待頂きたい。

I、【候補者入国者数推移（平成 20 年～25 年）】＜厚労省発表＞

表 1

国名		H20 年	H21 年	H22 年	H23 年	H24 年	H25 年	累計
インドネシア	受け入れ人数	104	189	77	58	72	108	608
フィリピン	受け入れ人数		190	72	61	73	87	483
受け入れ人数合計		104	379	149	119	145	195	1091
EPA 協定人数（各 300 人）		34.6%	63.2%	24.8%	19.8%	24.2%	32.5%	33.2%

- 表 1 は平成 20 年～25 年までの「候補者入国者数」を表した実数で、インドネシアとフィリピンとの受け入れ人数を比較すると、ほぼ例年同水準を保っていることが分かる。
但し、フィリピンは平成 21 年より受け入れが開始されたため、平成 20 年から受け入れ始めたインドネシアに比べて、累計で 125 人の差が生じている。
- EPA 協定での政府の 1 か国に対する受け入れ人数は、1 年間で 300 人となっているが、充足率は平均 33.2%に過ぎないことが判明した。
- 但し、受け入れ機関からの「受け入れ希望数」を見ると、平成 20 年のインドネシア（受け入れ希望人数 291 人）と平成 21 年のフィリピン人（受け入れ希望人数 288 人）は、ほぼ 300 人近くに達しているながら、マッチング等で折り合いがつかずに受け入れできなかったことが、一つの特徴だ。
- 全体の傾向として、平成 22 年の落ち込みから徐々にではあるが、両国ともに増加傾向にあり、平成 26 年では両国ともに 150 人台に達している。即ち、今後は徐々にではあるが、増大傾向にある。

10月から教育効果の高い、スカイプ授業開講！！

※ 本「スカイプ授業」は助成金の範囲内で参加できます。
詳細資料をご希望の方は、FAX でお送りしますのでご連絡下さい。

スカイプ授業の
強み

- 1、会話をしながら、Eラーニングではできない「疑問点をその場で理解できる。」
- 2、受験者の「聴解力と会話力」が重なるごとに身につく。
- 3、教師と共通のテキストを使い、「読解力と構文力」が身につく。
- 4、瞬時反応能力を養え、「難解な熟語漢字対応能力」が身につく。
- 5、学習計画に基づいて、確実に「国家試験受験能力」が身につく。
- 6、専門書を使うために、学習と同時に「専門知識」を身につけ合格能力が高まる。

Ⅱ、【国家試験合格者数推移（平成23年～25年）】＜厚労省発表＞

表2

受験 年度	インドネシア			フィリピン			合計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
H23年	94	35	37.2%	1	1	100%	95	36	37.9%
H24年	184	86	46.7%	138	42	30.4%	322	128	39.8%
H25年	107	46	43.0%	108	32	29.6%	215	78	36.3%

- 表2は2ヶ国の受験者の合格割合を表したもので、来日3年目で受験した結果を考慮すると、合格者数並びに合格率が非常に低いことが表れている。両国の3年間の合格率平均は、38%にしか過ぎない。

そして、国別に見るとインドネシアの方が平成25年では、13.4%も合格率が上回っていることが特徴だ。

- 但し、平成23年のフィリピンの合格率100%は就学コース受け入れであるため、通常受け入れとは異なる。フィリピンは3年間の全体の合格率の38%を、平成24年25年ともに下回ったことに注目する必要がある。

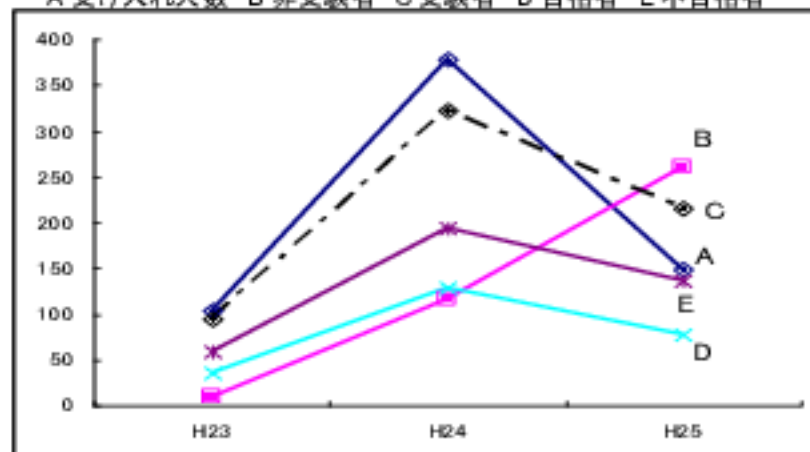
表3-1

受験年	受け入れ人数	非受験者数	受験者数	合格者数	不合格者数
H23	104	10	94	35	59
H24	379	116	322	128	194
H25	149	260	215	78	137

表3-2

【表3-1の推移表】

A 受け入れ人数 B 非受験者 C 受験者 D 合格者 E 不合格者



Ⅲ、【非受験者の推移と増加の原因】

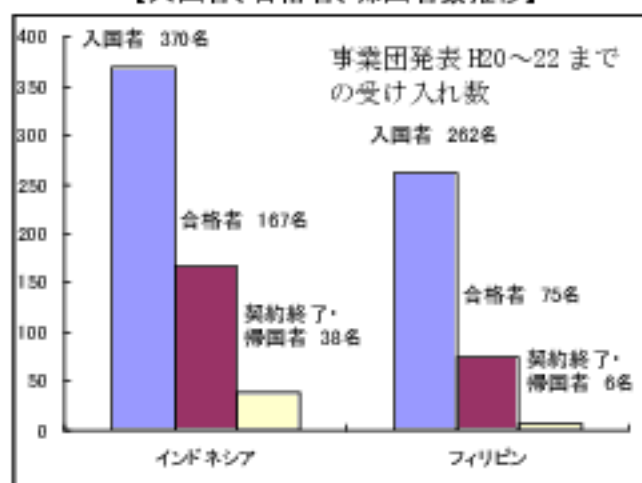
- 表3の1と2は弊社が厚労省発表数値を基に作成した表だ。特に、表3の2のグラフを見ると、受け入れ人数に対して受験者数と不合格者数を差し引いた数、即ち、非受験者数を算出したものだ。この「非受験者数の増加率」が、年とともに急速に増大していることが今後の課題と言える。
- 非受験者の増加原因で考えられることは、「就業契約を満了せず途中帰国した者」と、「一度受験し、不合格となり帰国した者」が大半だ。帰国の原因の一つには、日本語力が無いために生活に馴染めなかったことや、日本語学習に対しての困難さを感じ失意して、母国生活を選んだことが考えられる。

Ⅳ、【入国者、合格者、帰国者推移】

- 表4は事業団発表数値を基にグラフ化したものだ。特に、表4で解析した通りインドネシア人の入国者370名に対して、合格者は167名に達している。それに対して、フィリピン人は入国者262名のうち、

表4

【入国者、合格者、帰国者数推移】



合格者は75名に留まっていることが判明した。但し、インドネシア人の帰国者は38名おり、フィリピン人の6名に対して6.3倍であることに注目する必要がある。その原因の一つとしては、生活習慣の違いや、宗教的な問題も背景にあると考える必要がある。

施設の声

前評判とあまりにも違うベトナム人！

- 当施設では今までに在日外国人を受け入れてきている。今回、EPAで受け入れるのはベトナム人が初めてだ。事業団の前評判では、ベトナムの候補者は日本語がとてもしっかりできるという話だったので、楽しみにしていた。
- しかし、実際はかろうじて意思が伝わる位だ。そのため、朝礼や打ち合わせ、連絡業務などは一切できないため、職員がつきっきりで指導しなければならないので、負担が大きくなっている。事業団の話は、あまりにも大きく差があつてがっかりしている。今後は必ず正確な情報を提供してほしい。
- 候補者は、自国では看護師として働いていたので、専門知識力はある。しかし、日本語力が無いので、それを身につけることが一番の課題だ。

(神奈川県・T施設)

受験対策は焦らず、日本語学習が重要！

- 神奈川県と横浜市の支援があり、無償で専門学校で勉強できるようになっているので、専門知識の学習は順調に進んでいるように見える。
- しかし、在日20年間以上のフィリピン人が介護の専門学校に通学したが、教師の日本語が分からずに途中で辞めたという話などを聞いた。そのため、本当に専門学校の授業内容を理解して、ついていっているのかは大きな疑問だ。
- 日常接していても、たどたどしい日本語で会話をしている状態を見ると、今の時期はまず、日本語力を身につけさせることが大切なことではないかと、本音は思っている。
- だから、月報で言われている通り、3年後の受験のためには、3年間の節目を日本語の習得と国家試験対策の勉強とを、はっきり分けて考えることが大切だと、つくづく感じている。(神奈川県・S施設)

事業団の訪問指導内容に疑問！

- フィリピンの候補者三名を受け入れているが、ここ最近では皆、学習意欲が無く、勉強しない状態で、どうしたらいいものか悩んでいる。日本語もままならないので、利用者対応が上手くできていない。さらに、申し送りも正確にできないために、職員のフォローが必要となり正直、二度手間の繰り返しだ。
- 最近、事業団の訪問指導があつた。その時に「事業団のテキストを使って試験対策、特に専門用語をもっと勉強なさい。あと試験まで2年しかないのだから力を入れるように。」と、ひどく厳しく言われた。職員としては、日本語もまだ十分でない状態なのに受験対策をやったところで理解できない。日本語をやればいいのか、受験対策に力を入れるべきか、全部が中途半端で、身につけていない状態になっているのが現状だ。候補者の学習意欲も下がっているが、同時に職員の意欲も下がっている。

(愛知県・T施設)

事業団の指導で合格できるのかが、不安！

- 事業団からは2冊教材が渡されて、事業団試験は、その教材のページ指定の範囲から行われている。本当にこのような試験のやり方で本人達の受験能力が高まるのか、疑問だ。
- 再来年受験を控えているが、日本語力が低いために、事業団から指定された教材の内容に、とてもついていくことができないにも関わらず、訪問指導では「もっと専門用語や知識を勉強なさい。」と言われた。
- これは、受験者の能力に合った指導とは決して言えないので、納得がいかない。受験者自身は日本語も分からず、事業団教材の内容も分からないために混乱している。このまま言われた通り進めても、果たして合格できるのか不安だ。(大阪府・P施設)

第3弾 あなたなら、どう教える？

右の質問に対して、二つの答え方があります。
あなたはこの違いを質問されたら、
どのように教えますか？

質問) あなたは、フィリピン人ですか？

答え 1) フィリピン人じゃありません。

答え 2) フィリピン人ではありません。

具体的な教え方は次号で！！

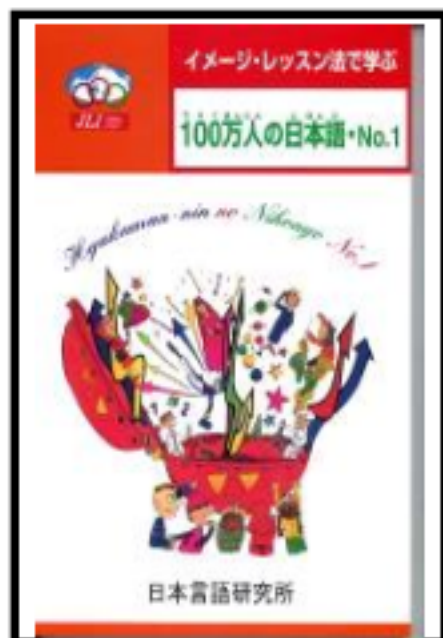
自学能力を養うための 適切な教材！！

- ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
- ③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている

主教材

基礎言語能力レベル

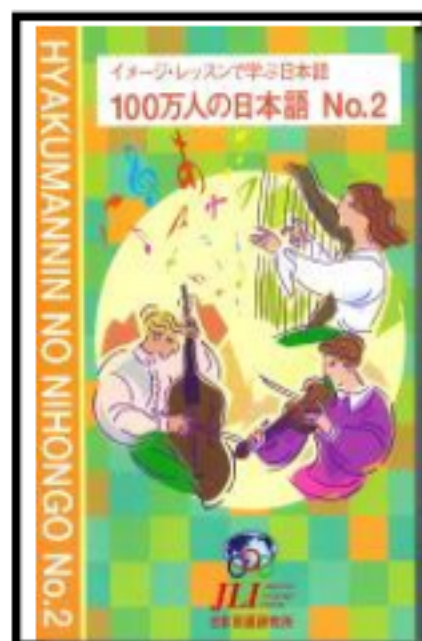
スカイプ・教材の問い合わせ先
ことばの研究社
電話：086-441-3361
FAX：086-441-3362
岡山県倉敷市庄新町 9-4-12



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】
ひらがな・基本漢字の習得とともに、全ての
言語活動の基本となる概念を形成し、名詞文・
存在文・普通動詞文を無理なく学習できる構成
となっています。(2,805 円)

※ 習得漢字数 310 字～620 字

※ 習得語彙数 520 語～1560 語



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】
会社や学校、家庭内などあらゆる場面における会話文
を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解
しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得
できます。また、形容詞文学習により心情・語感表現
力の基礎を築きつつ、各ページのコーナーで日本語
のあらゆる規則性と用法を自学できます。(2,805 円)

※ 習得漢字数 420 字～840 字

※ 習得語彙数 570 語～1,710 語

生活言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】
日本社会に適応できる人間関係を理解
して、目上の人に対する礼節を保つ表
現力が身につきます。

論理的に文を組み立てた長文が書け
ると同時に、漢字熟語を使った要約文
を書けるようになります。

仕事に関連する語彙を自分で辞書を
引いて調べることができます。(3,300 円)

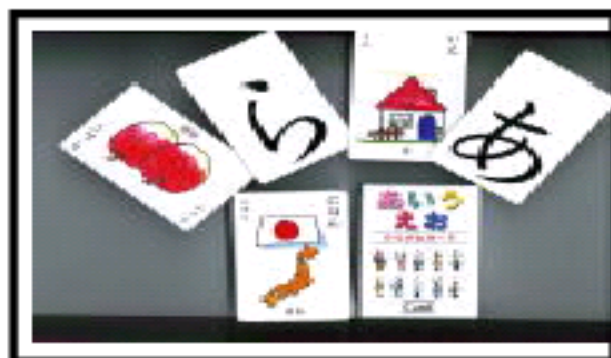
※ 習得漢字数 850 字～1,700 字

※ 習得語彙数 1,110 語～3,330 語

使ってみてビックリ！
教育効果の高さ
副教材

基礎言語能力レベル

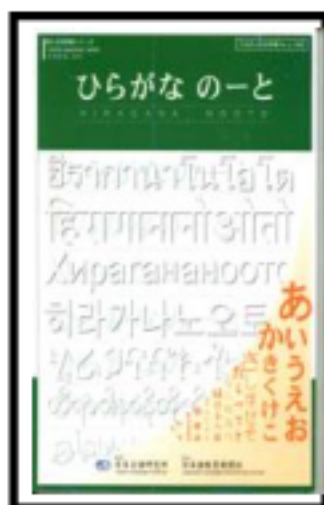
手が掛からずに、
受験者だけで勉強できる教材



表面にはひらがな文字が一文字ずつ書かれており、裏面にその文字を使った語のイラストが色彩鮮やかに描かれています。

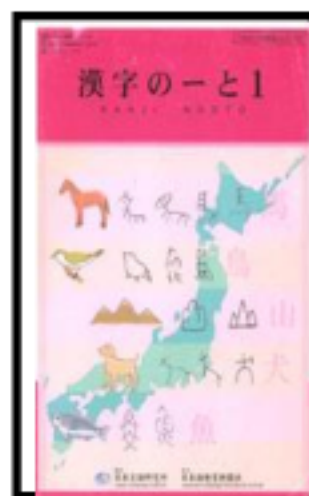
イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習者に最適な内容になっています。

(1,155 円)



ひらがな文字の自学に最適な教材です。字形、書き順などの練習だけでなく、全ての日本語の基礎となる「しつもとこたえ方」に絶対必要な発話方法を、身近な事例を使って学習できるようになっています。社会生活に必要な最低限の語彙も同時に習得し、定着できるように作られています。

(1,980 円)



『100万人の日本語 No.1』に沿った構成となっており、文型・成文の習得をしながら効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。

非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適。

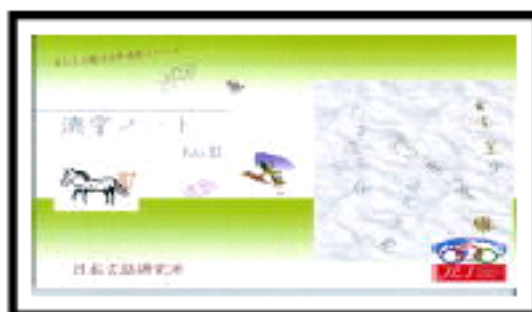
また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

生活言語能力レベル



カタカナ語彙を使った場面を表すイラストが各ページにあります。このノートは説明文と会話文が織り成されています。この場面を紹介する文は、外来語の理解とその言出し練習をしながら、練習問題によって読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

(1,496 円)



『100万人の日本語 No.2』に沿った構成となっており、漢字習得と成文練習のみならず、読解力も同様に養えるように作られています。

漢字の「へん・つくり」の付録もあって、漢字の成り立ちに対する理解ができる内容となっています。

非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適。

また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い諸技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は、平成 24 年度国家試験で受験者数 95 名中 36 名が合格し、その 36 名中 19 名 (52.7%) がこの【到達度試験】を受けた受験者でした。 25 年度では、128 名の国家試験合格者のうち、【到達度試験】参加者は 76 名で、合格者は 68 名 (89.4%) でした。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で働く人間として必要な言語能力を養うことを重要視した学習方法です。 さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、病院や介護施設などで実践力のある要員として育成することを目的としています。 定期的試験結果を数値化し、職員に指導の仕方を考察票でお送りしておりますので、安心してご指導頂けます。 是非、ご参加下さい。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職業言語能力を養う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」(漢字 熟語)と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 (語彙力・文意力)に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生活言語能力を養う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基礎言語能力を養う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字(ひらがな・カタカナ・ 漢字)・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回	75 %	受験者の現状の日本語能力を観る。		